

・

2026 年 8 月上旬、石川県輪島市の白米千枚田（しろよねねんまいだ）を訪れました。日本海へ向かって急斜面を下る小さな田が幾重にも連なり、その向こうには夏の日差しを受けた青い海が広がっています。大小さまざまな田が等高線に沿って描く曲線と紺碧の日本海との取り合わせは、千枚田ならではの美しい景観です。名称の通り、現在 1,004 枚あるとされています。

しかし、この風景は二度にわたる大きな災害に見舞われました。2024 年 1 月 1 日の能登半島地震では、千枚田も極めて大きな被害を受けました。約 1,000 枚の水田のうち、およそ 8 割で亀裂、畦の崩壊、地盤のずれ、用水路の破損などが発生したと報告されています。中には長さ約 5m、深さ約 1m に達する亀裂も確認されました。棚田はもともと急傾斜地につくられ、一枚一枚が非常に小さいため大型重機を入れにくく、通常の水田以上に復旧が難しい場所です。さらに復旧への歩みを始めた同年 9 月には、能登地方を記録的な豪雨が襲いました。輪島市では河川の氾濫や土砂災害が相次ぎ、千枚田でも土砂の流入や畦、水路などへの被害が発生し、地震から立ち上がろうとしていた地域に再び大きな打撃を与えました。

それでも、地元の農家や保存活動に携わる人々、ボランティアなどの力によって復旧が続けられ、耕作可能となった田から少しずつ稲作が再開されてきました。写真を見ると、緑の稲が美しい曲線を描く一方、まだ耕作されていない区画も残っています。また右上の山腹には大きく土砂が露出した場所と工事の様子が見え、復興が今なお続いていることを実感させます。

地震、そしてそのわずか 8 か月余り後の豪雨という二重の災害を経験したことを思うと、目の前に広がる緑の棚田は以前とは違った意味をもって見えてきます。青い日本海を背景に、稲が風に揺れるまでに美しく蘇った千枚田の姿には、本当に感動しました。長い年月をかけて築かれた景観と、それを守り、再び田に水を引き、稲を育てようとする人々の力強さが重なって見える、忘れがたい夏の風景でした。(2026 年 8 月上旬／石川県輪島市)

